

わが

健康で安心していきいきと暮らせる 魅力と活力にあふれるオホーツク中核都市

魅力あふれる4つの自治区

北見市は北海道東部の常呂川流域に位置しており、平成18年3月に北見市、端野町、常呂町、留辺蘂町の1市3町が合併して誕生した道内第1位の行政面積を有するオホーツク圏最大の都市で



多くのオリンピック選手を輩出するカーリングのメッカ

す。オホーツク圏の中心都市の「北見」、田園空間とクリーン農業地帯の「端野」、オホーツク海とサロマ湖に抱かれ、漁業とカーリングのオリンピック選手を輩出する「常呂」、大雪山のふもとに位置し、農業、林業、天然温泉による観光を拠点とする「留辺蘂」の魅力にあふれた4つの地域がそれぞれを「自治区」として、地域の特性を活かしながら均衡ある発展を目指しています。

オホーツク圏の「中核都市」として

本年度、「健康で安心していきいきと暮らせる中核都市」「魅力と活力にあふれる中核都市」への実現に向け、「尊い命を守り育む事業」と、「活力を生む大型建設事業」の2点を重点事業として推進する

こととしています。

1点目として、これからの時代を担う子どもたちが、健やかに成長していくことが大きな財産であるとともに、その子どもたちの、かけがえのない「命」を守ることが、未来にとっても大変重要であると考えているところです。3月11日に発生した東日本大震災により、多くの尊い命が奪われ、市民の皆さまの「命」の大切さや災害に対する適切な対応の重要性について意を強くしたところであり、何ものにも代えがたい市民の「尊い命を守り育む事業」を優先的に取り組むこととし「少子化対策・子育て支援」「医療の確保」「災害対策」に力を入れることにより、「健康で安心していきいきと暮らせる中核都市」を実現していきたいと考えています。

新北見型観光推進プロジェクト

本市では平成19年から「新北見

え、共に取り組むものとする」議会及び市長等は、その権限と責任において公正かつ誠実に市政を進め、自治体としての自立を確保するものとする」との基本理念の下、持続可能で活力に満ちあふれる協働のまちづくりを進めることとしています。

また、住民自治の推進として住民協働組織の市内全域への拡大に向けた立ち上げや住民自治推進交付金による地域独自の活動に対し、支援するとともに、市民が自ら考え、自ら実践する地域活性化に向けた自主的なまちづくり活動に取り組んでいます。

プロフィール

- ◆ 面積 1427.56 km²
- ◆ 人口 12万4875人
- ◆ 世帯数 6万351世帯

〔将来都市像〕ひと・まち・自然がらめく、オホーツク中核都市で安心な活力都市 北見

〔まちの特徴〕北海道の東部、オホーツク圏最大の都市。東西に延びる道路の距離は約110kmあり、北海道の屋根大雪連峰からオホーツク海に至る。

〔市町村合併〕平成18年3月5日、北見市、端野町、常呂町、留辺蘂町の1市3町が対等合併(新設合併)

〔特産品〕玉ねぎ、木材加工品、オニオンスープ、ハッカ製品、白花豆加工品



北見市長 小谷毎彦

ホタテ

〔観光〕北見ハッカ記念館・薄荷蒸溜館、ピアソン記念館、おんねゆ温泉、ところ遺跡の森、ワッカ原生花園

〔イベント〕北見ぼんちまつり、おんねゆ温泉まつり、たんの太陽まつり、北見菊まつり、たんのカレイライスマラソン、サロマ湖100kmウルトラマラソン、北見厳寒の焼肉まつり



B級ご当地グルメ「オホーツク北見塩やきそば」

型観光推進プロジェクト」を3カ年計画で進めており、現在第2次計画を推進しています。第1次の計画の中では、北見観光戦略会議を立ち上げ、9つの提言をいただきました。「食のブランド化」の提言に基づき取り組んだ「オホーツク北見塩やきそば」が昨年のB-1グランプリ厚木大会で10位入賞を果たしました。この「オホーツク北見塩やきそば」は地産・地消の推進と地元で根付く郷土料理を目指して、生産量日本一の北見玉ねぎ、オホーツクのホタテや自然塩を使うなど定義とルールを設けました。地元の原料を使うことで北見でしか味わえないオリジナルメ

ニューに仕上げ、食を通じたまちおこしを地域活性化の起爆剤にしようとして、地元の飲食店・研究機関・食品企業・関係団体が力を合わせて開発し、「地元での定着こそが最大の魅力」という共通意識が生まれています。観光客やビジネスマンらにも「北見を象徴する料理」として認識され、さらなる効果を生んでいます。また、昭和初期には世界の7割を生産したといわれるハッカの歴史と文化の再認識という提言に基づき、北見ハッカ記念館の「近代化産業遺産」登録、地域再発見という提言に基づき「北見市観光検定」を実施するなど、さまざまな施策を行っているところです。

市民とつくる信頼と協働のまちづくり

本市では、平成22年12月に自らによるまちづくりの最高規範となる「北見市まちづくり基本条例」を施行しました。「まちづくりの主体は、市民である」市民は、個人の尊厳と自由が等しく尊重され、自由な意思と責任を持ち、相互に支えあい、自立して暮らせる社会を自らつくるため、共に考



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

「安心して暮らせ、地域・ひと・ものを結ぶ、魅力いっぱい」のまち「づくり」を目指して

はじめに

このたびの東日本大震災におきましては、全国市長会をはじめ皆さまの厚情に対し、深く感謝申し上げますとともに、皆さまからのご支援により着実に復興に取り組んでいるところです。

さくら市は、栃木県の中央部で県都宇都宮市の北東に隣接し、栃木県を北西から南東に貫流する一級河川の鬼怒川の東側に位置し、平成17年3月に旧氏家町と旧喜連川町の市町村合併により誕生しました。古くより交通の要所として栄えてきましたが、東北縦貫自動車道、国道4号、国道293号の主要な幹線道路が整備され、さらにはJR宇都宮線の氏家駅、蒲須坂駅があり、首都圏からも120km圏内に位置しているなど、交通の

利便性に優れていることから、栃木県内でも屈指の人口増加率となつていきます。

恵まれた地域資源清流がはぐくむ自然の恵み

日光連山や名峰高原山から清らかな水が注ぎ込まれる鬼怒川、荒川、内川の一級河川が市内を貫流しており、この清らかで豊富な水と河川から培われた肥沃な土壌により、良質な米麦の穀倉地帯として盛んに農業が営まれてきました。また、首都圏に近接している地理的優位性を生かし、比較的温暖な気候であるため野菜を中心とした施設園芸栽培や良質な肉用牛の生産地としても注目されています。

この豊富な水資源を活用し、食品加工メーカーをはじめ多くの優良企業が操業しています。特に大

手自動車メーカーの進出決定により、最先端の自動車産業を中核とした産業の集積を目指しているところであります。今後も、企業誘致を積極的に展開し、雇用の確保と安定した財源確保に取り組んでまいります。

地域資源を活用したまちづくり

本市は、温泉や歴史などの地域資源にも恵まれています。特に温泉は、日本でも有数といわれる良質な湯を湧出する喜連川温泉があり、市内には公共の温泉施設のほか民間施設なども含め、多くの温泉入浴施設があります。この喜連川温泉は、島根県にある斐乃上温泉、佐賀県の嬉野温泉とともに日本三大美肌の湯と称され、泉質の美容効果が高いといわれているこ

とから、休日には県内外より多くの方々を訪れます。本年は、温泉湧出30年の記念の年に当たるので、さらに多くの皆さまに「日本三大美肌の湯 喜連川温泉」を知っていただくような事業を展開していきたいと考えています。

また、例年2月中旬から3月上旬の間に氏家駅周辺の商店を中心に各店舗に雛人形を飾る「氏家雛めぐり」が実施されます。個性的な雛人形を飾るだけでなく各種イベントも開催し、ガイドブックを片手に市内を散策する観光客の増加とともに、参加する店舗なども増えています。また、来訪者からは素朴ではあるが、心温まるおもてなしが好評で、リピート客や評判を聞いた観光客など、年々来訪者が増加しています。市民との協働のまちづくりの成功事例として、着実に根付いています。この「氏家雛めぐり」は「歩く」「見る」傾向が強いので、市といたしましても今後は「買う」「食べる」要素を強化してさ

らなる経済効果が期待できるよう、また、全国に「氏家雛めぐりあり」と誇れるイベントに成長するよう、支援をしてまいりたいと考えています。

市民が元氣であるために

市民が住んでよかったと実感できるまちづくりにも取り組んでいくところですが、そのためには、市民が健康で生き生きと生活していくことが重要です。本市では、子育て世代への支援として、中学校3年生までの医療費の無料化や子宮頸がんワクチン接種費用の助

成などに取り組んでいます。その一方で高齢者に対しては、温泉入浴施設における健康相談の実施や寝たきりにならないための体づくり体操などを行っています。さらに「市民生涯 一人一スポーツ」をスローガンに掲げ、スポーツ教室やマラソン大会を開催するなど、健康づくりに取り組んでいます。

災害に強いまちづくりの構築について

これまでの防災対策の想定をはるかに超えたこのたびの震災、さらに東京電力福島第一原子力発電所の事故など未曾有の災害に直面し、何気ない普通の毎日の生活を守り、継続していくことの難しさを痛切に感じたところであります。

現在、災害の復旧・復興に取り組んでいます。被災後一刻も早く日常生活を取り戻すことができるよう災害に強いまちづくりに取り組みとともに、新たな防災体制なども構築していかねばなりません。特に被災地に対し、物的・人的支援が早急に取り組みされましたが、広域的な連携による防災体制の構築や仕組みづくりに取り組んでいかなければなら



市民協働でまちおこし「氏家雛めぐり」のイベントの様子

らないと強く感じたところです。

「住みよさナンバーワン」のまちづくりを目指して

冒頭にも申し上げましたが、本市は栃木県内でも屈指の人口増加率を誇っております。今後は、本市が持つ自然・歴史・文化などの

プロフィール

- ◆面積 125.46 km²
- ◆人口 4万4747人
- ◆世帯数 1万4985世帯

〔将来都市像〕安心して暮らせ、地域・ひと・ものを結ぶ、魅力いっぱい

〔まちの特徴〕栃木県を北西から南東に貫流する鬼怒川の左岸に位置し、平坦な水田地帯と関東平野と喜連川丘陵部を範囲とする地域。古くから城下町・宿場町として栄え、その名残も街のあちこちに見られる。

〔市町村合併〕平成17年3月28日、旧氏家町と旧喜連川町が対等合併



さくら市長 人見健次



〔特産品〕にら、いちじく、なす、りんご、霧降高原牛などの農産物や鮎の塩焼き・甘露煮。特に温泉の地熱を利用した温泉なすは「喜連川温泉なす」として栃木県の地域ブランドに認定

〔観光〕日本三大美肌の湯「喜連川温泉」、道の駅つれがわ、「友遊（ゆうゆう）パーク」（鬼怒川河川公園）、さくら市ミュージアム「荒井寛方記念館」

〔イベント〕さくら市きつれがわサマーフェスティバル&花火大会、うじえ納涼彩、ゆめ！さくら博、さくら市マラソン大会、氏家雛めぐり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

「びわ湖源流の郷たかしま」の魅力を高める

はじめに

平成17年1月1日に旧高島郡の6町村が合併して誕生した高島市には、山があり、平野があり、琵琶湖があり、これらが調和した美しい景観や自然の営みの中、地域固有の生活文化がはぐくまれてきました。

市域の約72%を占める奥山の広大な森林から、水はいくつもの谷筋を経て川に注ぎ、緑豊かな里山から平野部の市街地・集落である里住を潤し、琵琶湖、周辺湖沼の里湖へとつながります。

母なる湖・琵琶湖へ流れ込む水の3分の1以上を生み出すといわれている高島市は、すなわち琵琶湖の水源です。

里山、里住、里湖の、三里の豊かな恵みを生かしながら、「温かい」

「優しい」「思いやり」といった市民相互のきずなを強めるとともに、市民生活に直結する諸施策、事業の充実を力を注ぎ、住みたいまち、そして住み続けたいまち、「びわ湖源流の郷たかしま」の地域力向上に取り組んでいます。

「高島ブランド」の確立と「地産外商」

本市では、地域に根ざしたさまざまな生産活動が展開されていますが、少子高齢化の進展に伴う後継者不足や、販路開拓の必要性など、多くの課題を抱えています。

そこで、びわ湖の源流で育った安全・安心な農林水産物などの特産品を、市独自の認証制度による高付加価値化を推進し、「高島ブランド」の確立を図ります。また販路拡大の具体策として、地産地消に



とどまらず、吹田市の阪急千里線北千里駅前で実施しております「びわ湖源流の郷たかしま産直市」をはじめとする、地域外での高い「地産外商」を推進します。

また、本市の森林は、奥山のブナ林、スギの天然林、スギ、ヒノキの人工林、里山の雑木林など、多様な形態を見せます。特に、里山の雑木林やスギの天然林は貴重な生態系や良質な木が存在しており、非常に価値の高い森といえます。

奈良時代、都の社寺建築などに朽木産の木材が使用されたことが伝わっており、古来林業が盛んな土地柄でしたが、木材価格の低迷や後継者不足などにより徐々に衰退し、山の手入れも十分に行き届かない状況となりました。

間伐などを行うことにより森林の荒廃を防ぎ、森林資源の循環を

ます。

こうした活動に対し、創意工夫による魅力あるまちづくりを目的として、本年度から「高島市みんなで創るまちづくり交付金」制度を創設しました。

この交付金制度は、従来の限られた個別事業を対象とした少額補助金と、行政事務委託料を整理統合したもので、それぞれの地域における課題解決を考える上で、自治会の自由裁量度が高くなるよう配慮した、総括的交付金となっています。

それぞれの地域において、市民の皆さん合意の下に計画的、戦略的に活用いただければ、元気のあ



名産品企画展「高島いいMONO再発見」に展示された「和室キット」(高島屋京都店)

るコミュニティづくりの一助になるものと、大いに期待しています。

みんなで推進「ごみ減量大作戦」

本市で1年間に排出されるごみの量は約2万tで、平成21年度の実績では、その処理経費に約14億5000万円を投入しており、市税収入全体の約4分の1という膨大な金額となっています。

このうち可燃ごみは約1万4000t、しかもその約6割が紙ごみであり、リサイクル可能なものにも貴重な税金を使わざるを得ない状況にあります。環境センターには、これらの可燃ごみが1日当たり約40tも搬入され、現有焼却炉の処理能力を上回る状況が続いており、過剰な負担が掛かっています。

こうしたことから、「めざそうよ! 紙ごみ減量 日本一」のローガンの下、市シルバー人材センターとエコライフ推進協議会の協力を得て、市民の皆さん、企業、事業所、教育機関、各種団体、そして行政が一丸となって、今後3年間のうちに可燃ごみの排出量1日当たり30t以下を目標に、「ごみ減量大作戦」に取り組みます。

結びに

まちづくりにおいて、新しいものを考えつくり出すことは当然必要ですが、今あるものを美しく磨くことによって、その魅力が高まることを忘れてはなりません。

この変革の時代を、新たな未来

を切り開く絶好の機会ととらえ、地域の魅力と活力を高め、市民誰もが安心して暮らし、次の世代に誇りを持って「びわ湖源流の郷たかしま」を引き継いでいけるよう、市民の皆さんと一緒に知恵を絞

り、汗をかき、全力で市政運営に取り組んでまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 693 km²
- ◆ 人口 5万3541人
- ◆ 世帯数 1万9807世帯

〔将来都市像〕水と緑、人の行きかう高島市(新市建設計画)

びわ湖源流の郷たかしま

〔まちの特徴〕琵琶湖水面を含んだ市域は、滋賀県下最大の面積を誇り、「びわ湖源流の郷」にふさわしく、美しい景観や生活文化に関する全国百選に13選定されている

〔市町村合併〕平成17年1月1日、マキノ町、今津町、朽木村、安曇川町、高島町、新旭町による新設合併

〔特産品〕高島クレープ、鮎寿司、湖魚佃煮、箱館そば、富有柿、栃餅、鯖寿司



高島市長 西川喜代治



司、万木かぶら、アドベリ、丁稚羊羹、近江扇子、雲平筆など

〔観光〕海津大崎の桜、メタセコイア並木(マキノ)、家族旅行村ピラデスト今津、ザゼンソウ群生地(今津)、グリーンパーク想い出の森(朽木)、道の駅藤樹の里あどがわ(安曇川)、ガリバー青少年旅行村、畑の棚田(高島)、道の駅しんあさひ風車村、「針江生水の郷」の川端(新旭)など

〔イベント〕マキノカントリーフェスタ、海津力士祭(マキノ)、「琵琶湖周航の歌」音楽祭合唱コンクール、川上祭(今津)、朽木鯖街道ふる里まつり(朽木)、琵琶湖横断熱気球レース(安曇川)、びわこトライアスロン&ちびっこチャレンジin高島、大溝祭(高島)、七川祭(新旭)など

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

くみんなのでつくる元気で 誇れる島づくりを目標して

はじめに

宮古島市は、平成17年に「心つながりの島宮古(みやこく)」を目指し、平良市、城辺町、下地町、上野村、伊良部町の合併により誕生しました。沖縄本島から南に約290kmに位置し、サンゴ礁の海に囲まれた豊かな自然あふれる美しい島です。島全体が平坦に形成され、大きな河川や湖沼などはなく、生活用水や農業用水のほとんどを地下水に頼っています。島の人々が昔から「結い(相互扶助)の精神」を持ち、厳しい環境の中、互いに助け合う温かな人情にあふれていることから「癒やしの島」ともいわれています。また、スポーツイベントを活用した人材育成と交流促進を基本に「スポーツアイランド宮古島」として、全日本トライアスロン宮古島大会やツール・ド・宮古島、ビーチバレー大会、フルマラソン大会など年間を通してさまざまなスポーツイベントの開催や、温暖な気候を生かしてプロ野球キャンプなど各種スポーツのキャンプ誘致を進めるなど、すべての人がスポーツに親しめるような活動を展開しています。

産業

農業については、温暖な気候と平坦な農地を有し、農耕上恵まれた条件にあります。台風や干ばつなどの自然災害のほか、河川がなく水利条件に恵まれていないなどの理由により生産性は低く、農業を取り巻く自然環境は厳しいものがありました。しかし、昭和63年に着手した大規模な地下ダム建設工事が平成13年3月に完成し、現在は同地下ダムにより約2400万tの

農業については、温暖な気候と平坦な農地を有し、農耕上恵まれた条件にあります。台風や干ばつなどの自然災害のほか、河川がなく水利条件に恵まれていないなどの理由により生産性は低く、農業を取り巻く自然環境は厳しいものがありました。しかし、昭和63年に着手した大規模な地下ダム建設工事が平成13年3月に完成し、現在は同地下ダムにより約2400万tの

エコアイランド宮古島を 目指して

本市は、平成20年3月に「エコ

アイランド宮古島」を宣言し、平成21年1月には国より「環境モデル都市」の認定を受け、「宮古島市環境モデル都市行動計画」を策定しました。本市のような離島は、電力供給を再生可能なエネルギーのみに頼ることは供給面で不安定な部分があります。こうした離島の厳しい環境の下で、低炭素社会の構築を目指し、2050年までに2003年度比で約70%のCO₂削減を図ることを目標とし、独自のエネルギー供給対策とエネルギー消費する側の意識改革に取り組みんでいます。その取り組みの一つが主要作物のサトウキビです。砂糖を精製する過程で「バガス」と呼ば



宮古島市マスコットキャラクター「みーや」



サトウキビの搾りかすを利用したE3-E10燃料専用給油所

れる搾りかすや搾り汁の残渣である「糖蜜」が発生します。これらを活用する方策として、バガスは製糖のボイラーの燃料源とし、それによって発生する蒸気は、工場内の発電と製糖工程の熱源に利用するなどCO₂の削減に努めております。また糖蜜は、酵母菌を加えて発酵させ、エタノールを生産します。このエタノールをガソリンに3%混合させたE3燃料を公用車やレンタカーの燃料として給油しております。また本年度からE10燃料の実証試験もスタートしております。

本市には6基の風力発電施設が稼働していますが、さらに4メガワットの太陽光パネルを設置し「離

島マイクログリッドシステム実証試験」の実証研究設備施設を平成22年に完成させ、風力や太陽光などの発電変動が大きい再生可能エネルギーを蓄電池で負荷平準化する次世代の電力システムの検証が始まっています。また本年度は、島嶼型スマートグリッドのモデルとして、離島において自然エネルギーで島内のエネルギーを100%賄う実証事業に取り組むことになって

査も実施されており、その結果によつては本市の重要なエネルギー源となるものと期待しております。本市は、このような取り組みを推進することにより、市全体がCO₂削減に向けてまい進し、「エコアイランド」の実現につなげ、離島という地形的特徴を生かし、CO₂削減につながる技術の開発と、そ

の技術の導入を図ることより、低炭素社会の実現を図っていきたくと考えております。そして、この「島まるごと」の取り組みにより、国内外への情報発信と環境分野での交流人口の拡大を地域の活性化につなげ、この島がいつまでも自然豊かで活力に満ちた魅力ある島であることを目指します。

プロフィール

- ◆ 面積 204.57km²
- ◆ 人口 5万4860人
- ◆ 世帯数 2万4222世帯

〔将来都市像〕心つながりの島宮古(みやこく)くみんなのでつくる元気で誇れる島づくり

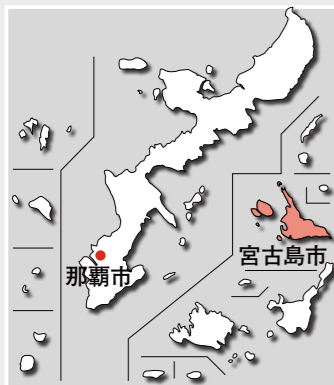
〔まちの特徴〕東洋一を誇る白い砂浜とエメラルドグリーンの海に囲まれた自然の恵みあふれるエコアイランド

〔市町村合併〕平成17年10月1日、平良市、城辺町、伊良部町、下地町、上野村による対等合併

〔特産品〕マンゴー、サトウキビ、葉たばこ、宮古牛、宮古上布、海ぶどう、



宮古島市長 下地敏彦



泡盛、ゴーヤー、とうがん、かぼちゃ
〔観光〕東平安名崎(日本百景)、与那覇前浜ビーチ(東洋一の白い砂浜)、宮古島海中公園、うえのドイツ文化村、宮古島市体験工芸村(シーサー作り、宮古織、オリジナル島ぞうりづくり ほか)
〔イベント〕全日本トライアスロン宮古島大会、宮古島100kmワイドマラソン、ビーチバレー宮古島大会、マンゴーまつり、宮古牛まつり、ツール・ド・宮古島、エコアイランド宮古島マラソン

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。